



犬猫用のCBD

安全性を考えてヘンプよりホップを！

犬用のCBDは、現在、人間用のCBDよりもさらに人気があります。しかし、人間用のCBDと同じものを犬にも安全に与えることができるのでしょうか？

製薬会社の鎮痛剤や薬は、人間には副作用が強く、動物にはあまり良くないことがわかっています。そこで、牧場主や農家は天然の代替品に目を向けており、CBDは圧倒的な人気を誇っています。コーネル大学の研究者によると、CBDオイルを1日2回摂取した関節炎の犬は、痛みが大幅に減少し、活動量が増加したそうです。

2019年に行われたてんかんの犬を対象としたCBDの研究では、CBDの血中濃度が高いと、発作の頻度が低くなるという証拠が発見されました。

米国の2000人以上の獣医師を対象としたオンライン調査では、以下の症状がCBDによる治療に適していることが示唆されました。痛み、関節炎、発作、胃腸障害、不安・気分障害、腫瘍、乗り物酔い、花火・嵐恐怖症。

ペットのためのCBDには、THCを含んではならないという注意点がありました。多くの州でマリファナが合法化されたことにより、ペットのマリファナ中毒が動物用毒物管理センターへの問い合わせの主な原因となっています。

ペット用のCBDの原料としては、ヘンプが人気です。しかしヘンプは、たとえ「検出されない」ヘンプであっても、ペットに有害なTHCを微量に含んでいます。この記事では、CBDのもう一つの安全な選択肢を検討します。

ヘンプCBDは犬に悪い？

ヘンプCBDに含まれるTHCは、ペットにとって有害です。たとえ微量であってもです。獣医師たちは何年も前からこのことを警告しています。

THCはペットに "ハイ "な気分をもたらします。意識が朦朧とし、混乱しているように見えるかもしれません。歩行やバランスの維持が困難になります。その他の症状は以下の通りです。

瞳孔拡大

多動性

う〜っと声を出す

よだれを垂らす

嘔吐(おうと)

頻尿

その他の問題

THCにさらされると、心拍数や体温にも影響が出てきます。重度の場合は、震えや痙攣、昏睡などを引き起こすこともあります。重症度は、THCの量に加え、ペットの大きさなどの他の要素によって異なります。

ペットのTHC暴露のリスクと原因

人間に人気のあるヘンプからのCBD。多くのペットオーナーは、このCBDを愛犬、愛猫に与えています。THCを含まないヘンプのCBDは存在しません。したがって、ペットにとっては危険なCBDの供給源であり、避けるべきです。

犬はとても好奇心旺盛な生き物です。あなたが使っているものはペットが食べるものではないと思うかもしれません。しかし、動物用毒物管理センターに頻繁に電話がかかってくるということは、あなたが隠し持っているヘンプCBDがペットにとって有害なものであることを示しています。

猫は犬よりも好き嫌いが激しい傾向がありますが、家の中で大麻を栽培している場合は、大麻の葉をかじるのが大好きです。（注：大麻が許可されている地域の話です）THCを含む嗜好品は、ペットにとってかなり美味しいものです。ガンジャのブラウニーやクッキー、チョコレートなどのおやつは、彼らにとって間違いなく有害な誘惑です。

また、合成CBDも問題になっていますが、これは人間よりもペットに深刻な影響を与えます。



ホップを使った強力な代替品

アジアのホップのみを使用した、100%天然の植物性CBDサプリメントです。

特許取得済み（米国特許番号US PP31,477）のKriya®ホップ植物には、非向精神性カンナビノイドであるCBD、テルペン類、プレニルフラボノイドが多く含まれています。この植物には当然ながらTHCは含まれていません：ほんのわずかな量でも。Kriya® Hopsに使用されているホップは、ビールの醸造に使用される一般的なホップ（*Humulus lupulus*）のつるに近い親戚です。Kriya® Hopsは穏やかですが、エンドカンナビノイドシステムのバランスを整える強力な効果があります。

しかし、大麻製品とは異なり、酩酊、パラノイア、認知障害などの好ましくない影響のリスクを伴いません。

クリヤホップに含まれる活性化合物は、天然の植物性神経伝達物質として作用し、免疫系、腸、骨、脳などにあるCB2受容体を活性化します。クリヤホップは強力な免疫賦活剤であり、穏やかな気分と健康的な炎症反応を促進する一般的な強壮剤としても使用できます。

Kriya® Hopsは合成およびヘンプ由来のCBDよりも優れています。

すべてのCBDが同じというわけではありません。

「生物活性」（「生物学的利用能」とは異なります）とは、物質が吸収された後、実際に体にどれだけの影響を与えるかを意味します。自然界には、 Δ 2-CBDという1種類のCBDしか存在しません。他の劣ったタイプのCBDは、合成で作られたり、加熱や加工によって分子が変性したりしたものです。また、同じ植物の異なる部分から抽出されたCBDは、生物活性（力強さ）が著しく低い場合があります。

ある分析研究では、大麻由来の市販CBD製品の生物活性レベルは非常に低く、ばらつきがあることがわかりました。Kriya® Hopsは、少なくとも76%の高い生物活性を持っていました。

The Center of Research and Advanced StudiesのLuisa Rocha博士による最近の研究では、CBDがてんかんの引き金となるセロトニン受容体を鎮める可能性が示唆されています。3種類の

CBDを用いて、ラットの発作を抑制する能力を検証しました。高用量では、合成CBDは発作を20%減少させ、麻CBDは60%減少させました。クリヤ® ホップだけが、すべての発作を100%止めることができました。

私たちは、相乗効果のあるテルペンを豊富に含むプレミアムフラワーから作られた、生物活性の高いホップ由来のCBDが、ペットにとって最高のCBDソースであると確信しています。

